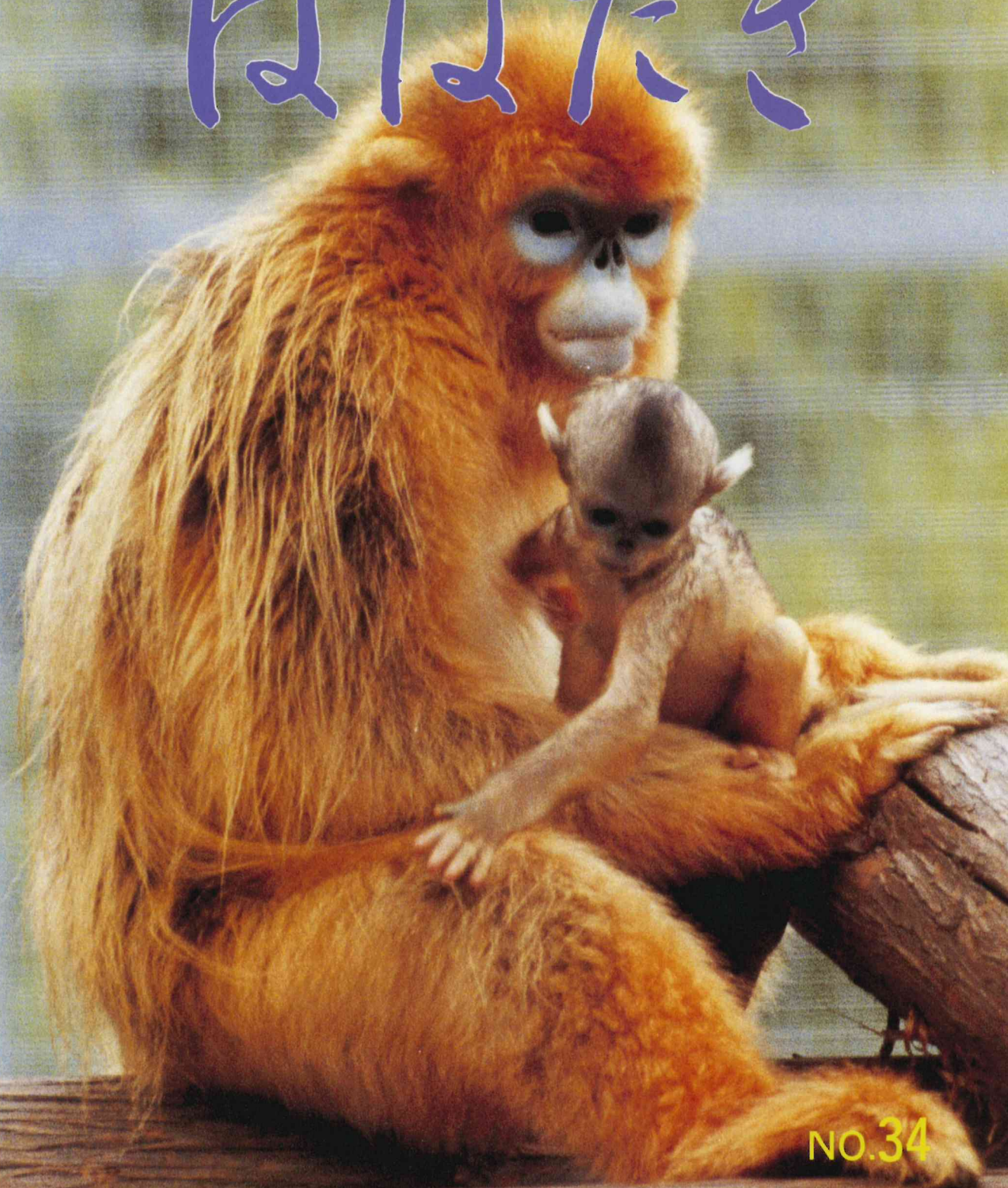


はばたき



NO.34

1993.7

神戸市立王子動物園

「アーバンリゾート都市」 と動物園

皆さんご存じのように、神戸市では平成5年4月1日から9月30日まで、「アーバンリゾートフェア神戸'93」が神戸市全域で開催されています。

これは、社会の変化に柔軟に対応しながら、快適な都市環境のなかで、人々がさまざまな生活様式を選択できるまち、すべての人々がいつまでも住み続けたい、また、訪れてみたくなる魅力あふれるまち、「アーバンリゾート都市神戸」をめざしていくものです。

王子動物園もこの趣旨に沿っていろいろな催しを開催しています。

『王子動物園ふれあいフェスティバル』と名付けて、「一日動物園長&キャラクターショー」「動物クイズ大会」「動物園夜間探検隊」などを今年新たに計画しました。以前から実施し、好評な「サマースクール」や「クイズラリー」なども継続して開催しますので、期間中14ものイベントになりました。楽しいイベントです。ぜひ、来園して積極的に参加していただけたらと思っております。

ところで、王子動物園はこのフェアの目的に最も合う施設の一つではないかと考えております。動物とのふれあい、希少動物の保護・繁殖、動物にやさしい環境づくり、動物の生育環境に近い環境づくりなど、日頃努力していることがすべてフェアの目的に沿っているといっても過言ではないでしょう。

ここで少し王子動物園の最近の話題をお話してみたいと思います。

まず第一は、何とんでも「金糸猴」にかわいい赤ちゃんが誕生したことでしょう。続いて、「新アシカ池」の完成、チンパンジー・コアラ・カピバラ・タンチョウ・フラミンゴ等に続々赤ちゃんが誕生したことなどです。これらについては、後述されていますのでここでは省略しますが、日本全国はもとより世界的にも快挙といわれているものもあります。

王子動物園は、これらのイベントを通じて、少しでも神戸市の発展に寄与していきたいと考えております。そして、動物にとって、もちろん私たちにとっても「やさしさ」と「ぬくもり」のあるまち「神戸」、動物愛護の精神

のあふれるまち「神戸」をめざす代表的な施設になるよう頑張っていくつもりです。

そのため、施設の改築、飼育環境の整備、展示方法の改善などに積極的に取り組んでまいりたいと思っておりますので、市民の皆様もぜひ王子動物園にお越しになりまして、ご意見などをお寄せいただければ幸いです。

今後とも温かいご支援・ご協力をいただきますようお願いいたします。

神戸市立王子動物園長 権藤真禎

も く じ

	ページ
1. 「アーバンリゾート都市」と動物園	②
2. 動物愛護と動物園の役割	③
3. 動物育児日記	④
1) キンシコウの子育て	④
2) カピバラの保育	⑤
4. タンチョウ、ニホンカモシカ 太平洋を飛ぶ	⑥
5. 今年生まれの動物たち	⑧
6. 飼育うらばなし	⑩
1) カリフォルニアアシカ新居に移転	⑩
2) インコ舎物語	⑪
7. 動物なぜなぜ問答	⑫
1) 海で暮らしている哺乳類は、 のどがかわかないのですか。	⑫
2) 鳥には歯があるのか。	⑫
8. 動物もの知り手帳	⑬
9. 動物科学資料館の話題	⑭
10. トビックス	⑮

表紙写真：キンシコウの親子

写真撮影：岸田 一也

英名 Golden Monkey
学名 Rhinopithecus
 roxellanae
生息地 中国

動物愛護と動物園の役割



新聞やテレビで連日報道されました「矢負いかモ」事件の反響の大きさは、いかに市民の方々の動物愛護、野生動物保護などに対する関心が高まっているかを実感するものでした。昨年、王子動物園でもホッキョクグマ舎に子猫を投げこまれるという事件があり、その対応に苦慮しましたが、投げ込んだ人への非難だけでなく、動物園でのこの種の事象に対する防止対策が不十分であるとお叱りも受けました。柵を高くしたり、網の目を細かくすることは、より自然な形で動物を飼育し、来園者に充分見ていただきたいという動物園の方針との兼ね合いから検討すると、大変難しい問題です。

動物園の役割の一つに、レクリエーションの場、博物館としての社会教育の場であること、野生動物の生きる姿を直接見ることによって様々な自然科学の方面への知的要求を引き出すこと、野生動物保護や動物愛護の精神の涵養などがあります。

イギリスの動物愛護団体の役員が日本に来られたとき、日本人の動物愛護精神の貧弱さを嘆かれ、なぜ学校ではもっとこの教育をしないのかと真剣に指摘されました。そのとき非常に恥ずかしい思いをしたことが忘れられません。

王子動物園ではこれらに対応するため、「動物とこどもの国」を建設し、平成3年10月オープンいたしました。この中に「ふれあいコーナー」

を設け、山羊や羊、ニワトリ、果下馬などの家畜に触れたり、ウサギやモルモットを抱いて動物の体温や心臓の鼓動をじかに感じてもらい、生き物をいとおしむ気持ちを育てる入口にいただいております。ここには女性の飼育係を配置しております。

昨年1年間に小学生・幼稚園児・保育園児を中心に86,451人の方々に利用していただき、好評を博しております。やはり動物愛護の精神は子供の時から養っていくべきだと痛感しています。今後はもっと学校教育と連携をとって、進めていきたいと考えております。

一方、飼育動物舎もコンクリートと鉄の檻ではなく、土や草木のある広い運動場で伸び伸びと快適に暮らせるよう改善し、動物の扱いにもより留意して行い、総合的に動物愛護精神を具現する方向で進めてまいります。

一人でも多くの人たちが動物をいとおしむ心を育てて、私たちはもとより、動物たちにとっても「やさしさ」と「ぬくもり」のあるまち、快適なまちになることを願ってやみません。

そのために王子動物園は何をすべきか、動物園での動物愛護に役立つ施策はどうあるべきかななどを模索していきたいと考えているところです。

(滝田政男)

動物育児日記

第2次日中共同研究員
北京瀕危動物馴養繁殖センター
周 玉富、鄧 波

◆キンシコウの子育て◆

「你好」私は、金絲猴の赤ちゃん。もう見てもらえましたか？ 父は、壮壮、母は雯雯、とても仲の良い両親です。中国国外最初の出産だそうです。父と母は、昨年5月、神戸市の友好都市である中国、天津市のお世話で、北京繁殖センターから1年間の予定で神戸にまいりました。神戸では飼育下での繁殖をメインテーマにあまり知られていない私たちについて日本と中国の共同研究が続けられています。一年間も外国で生活するのは、とても心配だったのですが、顔なじみの繁殖センターの연구원と一緒にいたので、安心したそうです。飼料も、中国と同じ物が用意されたといっていました。広い展示場快適な寝室、多勢のお客様には、少しとまどったが、すぐに慣れたようです。一方、日中飼育班は、毎日曜日、通訳をまじえ私たちの飼育について話し合いを行っていたそうです。繁殖をメインに、来園以後毎日、獣医さんが母の尿中のホルモン検査を行っているそうです。エストロジオール(発情ホルモン)、プレゲステロン(黄体ホルモン)、舌をかみそうな名前です。9月頃からの繁殖行動の後、数値に変化が表われ始め外観的にも母のおなかふっくらして来たようです。以後、飼育班も大変だったと聞いています。母体に負担が少なくなるように、展示場のとまり木の傾斜をなだらかに間かくの広い所は狭くしたり、母が出産まで楽に運動出来るよう、気くばりも大変だったようです。たくさんの関係者のおかげで、4月21日、無事私が誕生しました。

生後一週間は、父と一緒に生活していましたが、今は別居しています。といいますのが、私が生まれてからは、以前のように母との情愛表現である抱き合い、毛づくろい動作を母が少しさけるようになりました。きっと私の育児に専念しなかったのだと思います。父はそのためか私の手足を強く引っばる動作が激しくなり、私はがまん出来ず、大声を出した時もありました。母も落ち着きがなく、いらいらしているようでした。飼育員の話し合いの結果、父はとなりの寝室で生活してもらうことになりました。別居してからは、以前のように、母の食欲も回復し、やさしくほおずり、毛づくろいもしてくれます。



父さんは、ちょっぴりかわいそうな気もするけど、金網越し、ガラス越しに私の泣き声や、母の姿が見えるのだから、私のためにしばらくは我慢して下さい。私も一カ月が過ぎた頃から、目に見える物、手にふれる物すべて面白く、母の周りをいそがしく動いています。ずいぶんと離れ、動き回っていると思っても、母さんの手と私のしっぽの長さの範囲だけ、それより離れると母さんが私のしっぽを引っばって、「あぶないもどりなさい」とすぐ母の胸の中へ。

40日が過ぎた頃からは、私の行動も多少はしっかりしてきました。寝室では、母もしらぬ顔、足もとはおぼつかないけど、高さ1m位のとまり木の上だと平気です。床面ではピョンピョンとび回り元気いっぱいです。運動場のとまり木は、高いからまだこわいよ。それに母の許しがまだおらないしね。早く母のように、どんな樹の上でも平気で飛び回れるよう、頑張らなくては。中国に帰った時、仲間にはかにされないように。

大事なことを忘れていました。皆さん一年間の飼育展示だったのに、おかしいと思ったでしょう。私が誕生したので、出産直後の輸送は、母と私の体調が心配だったのと、かわいい私を神戸の皆様に見られるように展示期間を6ヶ月延長して下さいました。感謝、きれいな顔だとは思いますが、上を向いて鼻、チョウチョウがとまっているようで、見て飽きませんよ、もう一度見に来て下さいよ、また会いましょう。“再见”。

(松尾嘉則)

◆カピバラの保育◆

皆さんはカピバラという動物をご覧になったことがありますか……？ カピバラは現存するゲッ歯目の中で最大の動物であり、南アメリカ北東部の水辺に集団で生息しています。前脚は後脚より短く、前脚の4本の指間と後脚の3本の指間にはみずかきが付いていて、泳ぐのが大変得意です。また、大きい鼻孔と目・耳は、太い鼻づらの上部に付いており、泳ぐときには水面の上に出るようになっていて、まるで不恰好な潜水艦がシュノーケルを出して航行しているかのようです。

交尾は水中で行い、妊娠期間は120日で、3～7頭の子供を陸上の草むらに産み落とします。

私が王子動物園に採用されて間もない昨年6月のある日、先輩から「カピバラの子供は、メチャクチャかわいいぞ……」と言われ、その一言で是非繁殖させてみたいという気持ちになりました。

カピバラの繁殖は比較的容易ですが、昨年は異常出産でメスが死んでしまい、私が担当になった時にはオス1頭しかおらず、本来、集団生活をする動物なので、かわいそうに思いました。また、大変臆病なので、飼育係にもあまり馴れていませんでした。

そんな昨年10月28日、メス2頭がお嫁入りをしてきました。王子の仲間入りをしたメス2頭は、12日ぐらいで環境になれ、同時にオスにも良い影響を与えるようになりました。しだいに私たち飼育係にも馴れるようになり、交尾行動も見られるようになりました。

3月下旬にメス1頭のお腹が目立ちはじめ、お産が近いのを感じさせました。そして4月5日の朝、寝室をのぞいてみると、なんと、4頭の子供が元気いっぱい鳴き声をあげて、お母さんのおっぱいに力いっぱい吸い付いているではありませんか。それは想像以上にかわいく、

まるでミニチュアのウリ坊みたいでした。早速私たちは、子供たちを保護するためにカラスよけの柵を作り、放飼場に乾草を敷きつめました。

出産翌日の4月6日、子供のうちオス1頭に歩行異常があるのを発見しました。よく観察してみると右前脚に炎症をおこしているようです。すぐに獣医さんに応急処置をしてもらい、様子を見ることにしました。4月8日、いつものように様子を見てみると、そのオスの患部からうみが出ていました。外傷だったのです。どうやら、お母さんにかまれたようです。それから2週間治療を続け、一時は骨まで組織が破壊されて危険な状態だったのが、獣医さんの懸命の治療により、みごと完治しました。今ではまったく異常なく生活しています。

カピバラは、早成性のため生後4日目には徐々に餌を口にするようになります。カピバラの餌は、青草・ほうれん草・パン・バナナ・きゅうり・なすび・にんじん・さつま芋・さやえんどう・きぬさや・リンゴ・キーウィフルーツ・ペレット等です。その中でも特に青草・ほうれん草・パン・リンゴが好物で、生後10日もたつとむさぼるように食べるようになります。今では産まれた時の大ききの3倍に成長し、飼育係にもよく馴れ、お母さんの後に4頭がぞろぞろと付いて歩く姿は、とてもかわいいものがあります。

ところで皆さん、カピバラの鳴き声をしていますか……？ 子供はちょっと高めの声で『キュルキュル』と鳴き、成獣になると『カピカピ』と鳴くんですよ。

そんなかわいいカピバラの子供を、是非見に来て下さいね。

(中筋功二)



タンチョウ、ニホンカモシカ

太平洋を飛ぶ

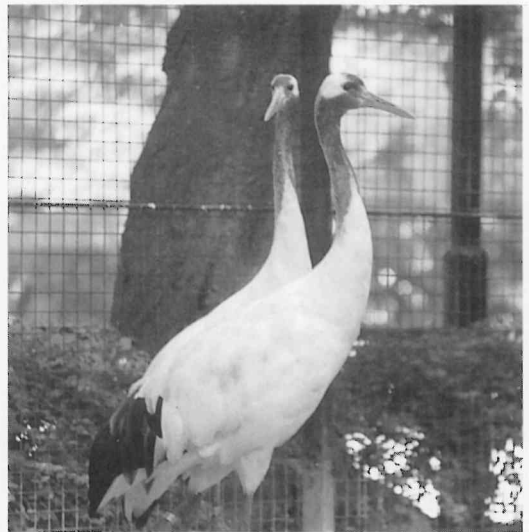
平成4年10月26日、神戸市からタンチョウ1対とニホンカモシカ1対を姉妹都市のシアトル市へ、姉妹都市提携35周年記念として、同市よりの要望により寄贈した。

当初、タンチョウは当園のメスの個体と他の動物園のオスをペアにして寄贈することになっていた。ところがこのオスが友好動物としてヨーロッパに贈られてしまっていた。そこで、急拠オス探しを行ったところ、宇都宮市から当園に寄贈してもよいとの回答を受けた。これはありがたいと喜んで現地に向くと担当の若い女性は「これはまだ子供で輸送に耐えられないから待って欲しい」と、飼育担当者としては当を得た回答。しかし、急ぐ必要もあって当方の事情を説明し、7月22日に移動してもよいとの宇都宮市の温かい了承を得た。両市と兵庫県、栃木県の教育委員会、文化庁へ文化財保護に基づく許可申請を行い、環境庁に県農林部を通じ特殊鳥類の譲渡譲受許可申請を行って、宇都宮市から神戸市への移動の許可を得た。

次にニホンカモシカは富山県の立山博物館より市、県を通じ文化庁に移動許可申請し、7月



ウッドランドパーク動物園カモシカ舎



タンチョウ

29日に神戸に移動することができた。この時は富山県立山博物館の職員の方々の協力を得た。立山博物館内にカモシカセンターがあり、この3名の女性職員と富山県職員の獣医さんの4名でカモシカを捕獲して輸送箱に入れてくれた。普段、餌を与えて馴れているとはいえ、カモシカを網で捕らえるとなると興奮して大変である。広い運動場を怒りながら走り回るカモシカを見たときは今日は帰れないのではないかと思った。しかし、遠くから来た人に迷惑を掛けまいと3名の女性が網で追い、突進してくるカモシカにひるむことなく立ち向かっていったのには驚いた。彼女達が一番カモシカの角の恐ろしさを知っているのと思うと頭が下がった。逃げ場を失ったカモシカが箱に入ったときは緊張していた顔に安堵の笑みが溢れた。

これで神戸にやっとタンチョウとニホンカモシカの各ペアが揃った。しかし、この後が大変であった。アメリカ農務省はニホンカモシカの輸入にあたって「日本から輸入するカモシカに関する議定書」で輸入規制をし、カモシカの

検疫体制を確立していた。この規則には日本での60日間の検疫と7種の伝染病の検査を行うよう指示していた。この検査を行うためには野生に近いカモシカ2頭をそれぞれ5回保定しなければならず、全身麻酔を2度し、採血をしなければならなかった。検査前にアメリカの登録責任者に輸送個体の個体番号を報告し、検疫所にも2頭のみ申請していたので、補充することができない状況にあった。検査を終了し、3回の外部寄生虫駆除作業を終え、ホルマリン燻蒸した餌を食べ、元気になっているニホンカモシカを見たときは、いつも下痢をして困らせ、また、理由も分からず死んでしまうカモシカとは別の種のシカのように思われた。この検疫については何度も神戸の動物検疫所の指示を仰ぎ、親切なる指導を受けた。また、県の家畜保健所の方々にも種々のご協力を得た。担当者が親切に自分のことのように対処し、心配してくれたのは動物園の仕事で日米親善にかかる事業だったからだと思う。

当初、アメリカの検疫場所はホノルルということであったが検疫場所が取れず、ニューヨークの検疫所となった。これで、動物は太平洋とアメリカ大陸を渡り西海岸のシアトル市へ逆もどりという大旅行をすることになってしまった。なお、ニューヨークでも30日の検疫係留が待ち受けていた。10月26日神戸で薬浴を終えたカモシカはタンチョウと共に貨物用のジャンボ機に乗り大阪国際空港からニューヨークに向けて飛び立った。この時、輸送業者からの、機内温度は10月でも零度近くに下がりますが大丈夫でしょうね」と言う言葉が頭をかすめた、2月の寒さにも耐える動物とはいえ急激な温度変化にはどうか不安はあった。しかし、それ以外に送る手段がないのだから選択の余地はなかった。業者は親切心で問われたのだろうがこちらにはただ悩む材料にしかならなかった。また、ニューヨークまで直行便でなければ輸送を許可しないというカモシカ議定書の規定があり航空事情に疎い担当としてはどぎまぎすることばかりであった。

タンチョウについてはワシントン条約の許可書が両国で輸出入にあたって必要であり、許可を得るには該当個体が飼育下で2代目の繁殖個体でなければならないこともあり、この確認にも時間がかかった。

この親善動物の輸出にあたって関係書類が通過した関係機関を数えてみたら通商産業省、文化庁、環境庁、大阪税関、動物検疫所など33の施設で、それぞれの機関で許可等が必要であっ



ニホンカモシカ

た。国の宝である特別天然記念物を輸出することは大変なことだとつくづく思った。

ニューヨークに無事着いたとの報告を得たときはホットしたが、送り先のウッドランドパーク動物園からのFAXにオス、メス同居可能か、また、タンチョウの移動にあたっての捕獲方法を教えて欲しいとの問い合わせがきた。このときはあの飛行機に乗っていけばとくやまれた。しかし、この心配も運良くクリアーし、シアトルのウッドランドパーク動物園から、その後検疫を終えた友好動物が無事着いたというFAXが届いたときは本当に疲れが取れた。ただ、そのFAXに「友好動物とは丈夫ですね」とあったのには苦笑した。動物達も神戸市とシアトル市との親善大使としての自覚があったのかも知れない。ウッドランドパーク動物園の担当者もこの事業が始まってから相当気を遣っていたのだと思う。私も本当に兩個体とも丈夫だと思った。

アメリカにはニホンカモシカはこの贈呈個体を加え3か所で7頭しかいないことを考えても輸出の難しさがうかがえた。

シアトル市の新聞に大きくこの友好動物贈呈の記事が掲載され、親善に貢献したと発表されたことがなによりも嬉しかった。

(加納 至)



カカバ

今年生 動物



ベニイロフラミンゴ



コアラ



ワオキツネザル

生まれの

たち



チンパンジー



タンチョウ



エリマキキツネザル

飼育うらばなし

カリフォルニアアシカ



みなさんは、アシカというと、どういうイメージをもっているのでしょうか？サーカスや水族園などで、ショーをしたり、ボールを口先でクルクル回したりするのを想像する人が多いと思います。王子動物園にも、ショーなどは行っていませんが、アシカを飼育しています。アシカの仲間には、7属14種の仲間がいますが、動物園で多く飼育しているアシカは、カリフォルニアアシカといい、アメリカ西海岸に住んでいます。

今年の4月に、王子動物園には新しいアシカ池ができました。以前のアシカ池ではプールに必要な水は毎週1回、水曜日に汚れた水を排水し、掃除をして水道水と井戸水を併用して入れ替える方式でした。この方式では、餌の食べ残しがあったり、夏の水温が高くなる季節ではどうしても水の汚れが早く、アシカ健康面ではマイナスになることが多かったのです。新しいアシカ池では、プールの水が常にいい状態で、お客さんにも見やすいように水の循環ろ過、殺菌ができるようになっています。また、以前のアシカ池ではアシカを上からのぞき込むようにしか見ることが出来ませんでした。新居では水中（水深 2.2m）で泳いでいる姿が見られるように観覧通路を造っています。ここでは、ゆうゆうと水中を遊泳しているアシカが目の前を通りすぎていく姿を見ることができます。「クルッ」と回転しながら泳いだり、ガラスごしに顔を近づけてきたアシカと思わず目があってしまったりすることがあり、今までとはまた違った

一面を見ることが出来ます。

水中を泳いでいるアシカを見るには、午前中の方がいいですよ。午後の1時頃に餌を与えるのですが、餌を食べ終わった後のアシカは陸の上で寝ていることが多いのです。水中のアシカと陸上で寝ているアシカとでは体の色の違いなどにびっくりするかもしれません。

4月14日にアシカ達を新しいプールに移しました。移った最初の数日間は、慣れないためか、全頭が落ち着かず、食欲もなくなりました。今ではガラスの前を気持ちよさそうに泳いでいるアシカも、その頃はガラスごしに見える人間をこわがったのか、プールのすみっこで泳いでいるだけでした。23日のオープンセレモニーの日には、みなさんに遊泳している姿を見てもらいたかったので、餌を与える場所を変えたり、生きたアジを与えたりして、プールのまん中で泳ぐように慣れさせました。その努力が実ったのか、23日には、ガラスごしにのびのびと遊泳している姿をみなさんに見てもらえて、安心しました。

しかし、いいことばかりは続かず、5月5日の夕方、雄のゴン太が老衰のため、27才でなくなりました。日本で2番目に長生きしているアシカだったのでもうすこしががんばってほしかったです。

でも、この文章がみなさんに読んでもらえるころには、新しい仲間の雄が来ていると思います。また見に来て下さいね。

（芦田雅尚）

インコ舎物語

24種90羽余り、これがインコ舎の住人？達です。

「ギャーギャーギャー」と、毎日・毎時間の恒例の大合唱。

耳栓でも使わないとインコ舎から出てしばらくは、他人の話し声も聞き取りにくいほどの音量の持ち主達との仕事……。

二日酔いの人は絶対入れない地獄の獣舎。

それでも、「おはよー」と朝は迎えられ、夕方、「バイバーイ」と送られる、動物園で唯一人間の言葉が返って来る獣舎。

これだけの種類と羽数が暮らしているのだから性格もいろいろ……。

人懐っこいインコや人嫌いのインコ、たださわがしいだけのインコやはずかしがり屋のインコ、落ち着きのないインコやどんくさいインコ……と他々。

世話をしていると時々、どこかの小学校の先生になったような気分です。

そんな楽しいインコ達も、恋の季節だけは別です。

あの人懐っこかったインコ達が一変し、凶暴で攻撃的なインコに……。

巣と愛する卵（ヒナ）を守るため、必死に向かって来るのです。

ただ飼育係にだけ向かって来るのではなく、巣に近づく者なら全てに攻撃してくるのです。

巣の近くに餌場がある展示場は、好物のヒマワリを入れるのも必死です。

この時期、私達飼育係が注意しなくてはなら

ないのが、巣を守っているペアと同居しているインコ達です。

いつもは仲良くしているのに、朝一番に見回ると、床の隅でうずくまっているインコを発見します。

「前日迄、あんなに仲良しだったのに？」と、不思議そうにうずくまるボロボロのインコを別の入れ物に一時収容しなくてははいけません。

しかし、こんな苦労も、かわいいヒナが巣から出て来た時には、全てが消しとんでしまうくらいうれしいものです。

ヒナといえば、インコ達は丸はだかの頭でっかち……とうていあの美しい親鳥を想像出来ない姿で卵からかえります。

そんなヒナも1カ月もすると、親と同じような美しいインコになるのですから、すごいスピード成長なのです。

インコ達は、ヒナに餌を与えるのも、巣穴を作るのも、あの大きな口ばしで行います。

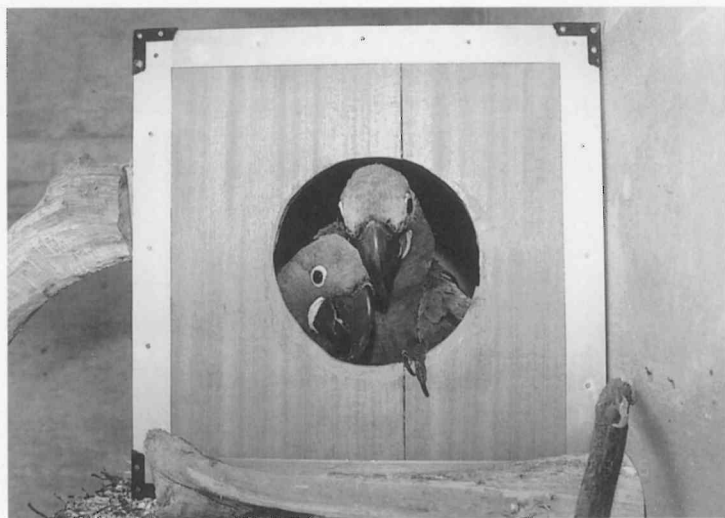
見るからに強力な口ばしです。はさむ力も強く、つまようじくらいの針金なら、いとも簡単に「プチン、プチン」と切ってしまうのです。

よく、お客さんで柵越しにインコの口ばしを触っているのを見かけますが、私達はドキドキものです。

こんなインコ達が暮らすインコ舎へ今日も、「ギャーギャーギャー」と迎えられた。

「おはよー」……「バイバーイ」とねえ。

(川上博司)

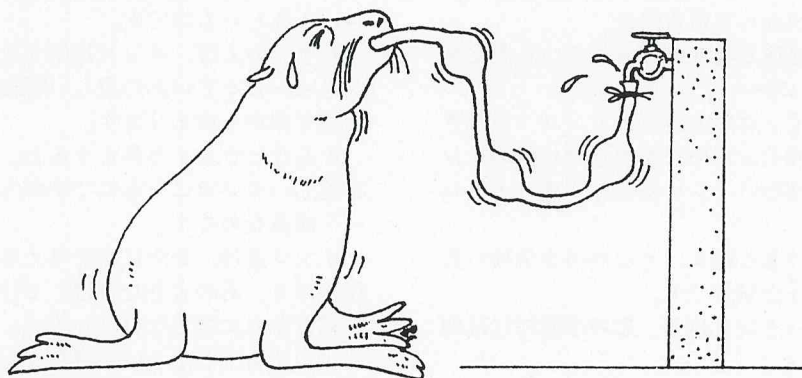


—動物なぜなぜ問答—

●海で暮らしている哺乳類は、のどがかわかないのですか？

海の哺乳類も私たち人間と同じように、水を飲まなければ生きていけません。しかし、海中にいるからといっても、塩水を飲んでいるわけではありません。「エサ」ととるときに海水をより分け、できるだけ飲まないようにし、「エサ」にふくまれている水分をとっているのです。この「エサ」に含まれる水分で十分なようです。

そうはいても、海の中にいるのですから「エサ」ととるときにどうしても海水を飲み込んでしまいます。でも、海の哺乳類は分葉腎（ブドウの実が集まったような形の腎臓）といって高性能の腎臓をもっているのです。海水を飲み込んでも体の塩分濃度をうまく調整できるのです。（安田伸二）

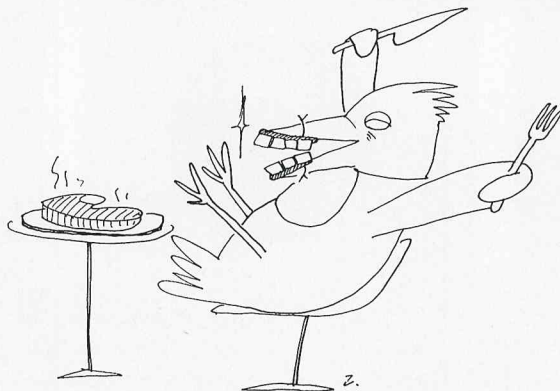


—とり年にちなんだ問題第2弾！—

●鳥には歯があるのか？

大昔の始祖鳥の化石をみると、くちばしに円錐形の歯があったことがわかります。でも、現代の鳥のくちばしに歯はありません。食べたものをすりつぶしたりする歯の役割はくちばしにはなく、ついたり、つまんだりするだけです。そのかわり、ニワトリなどでは、筋肉のよく発達した胃の中に砂粒がためこまれていて、それで餌を細かくくだきます。砂を食べさせないと、消化不良を起こす鳥もいます。

鳥に歯はありませんが、体の一部に「歯」という名前のついた場所ならあります。「卵歯」は、ヒナがふ化する時に卵の殻を割るために使うもので、生まれてすぐになくなってしまいます。「板歯」はくちばしの縁にみられるギザギザで、“ふるい”のような役目をしています。フラミンゴが水中の餌を食べる時には、この板歯と舌にある「櫛歯」を上手に使い、水と餌をふるい分けています。（村田浩一）



動物もの知り手帳

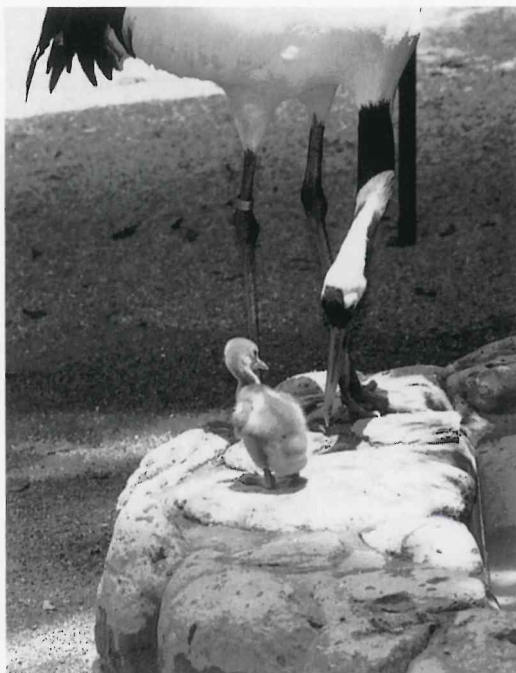
動物園の動物達の寿命

人間の寿命というとは今は80才という答えが返ってきます。しかし、一昔前までは人生50年とっていました。このように寿命とは生活環境の変化によって変わるようです。それでは動物園の動物達の寿命はどうかとみると答えはさまざままで難しいです。日本の動物園で一番長生きしているのは岡山県の池田動物園のミシシッピーワニで67才です。これは群を抜いた長寿といえます。次に長生きは当園で飼育中のインドゾウ『諏訪子』の50才です。これらは人間並みの50代を生きています。しかし、他の動物は30才代、20才代、10才代、2才代と短命です。このように動物の種によって寿命の異なる原因はとなると、これまた難しく簡単な答えはないようです。細胞分裂の回数によって定められているという説やDNAの損傷説などがありますが、明確にはされていません。ただ動物園にいて動物達を見ていると、大きな動物ほど長寿のように思いますが例外もあります。例えば極端に変形したキリンは大型動物ですが20才前後しか生きられません。また、急激な行動を行うチーターも肉食獣中一番の走者ですが、寿命は14才代と他の大型の肉食獣に比べて短命です。なお、多産な動物のオポッサムも短命です。これに対してナマケモノは名前のとおりあまり動かず、排便は週に1回か2回ですが、せかせか動く同じ貧歯目のアルマジロより2倍も長生きします。このように動物園にいると何か長寿の原因が見えて来るような錯覚を感じます。

多くの動物の寿命は20才代で止まっています。肉食獣では30才代まで生きるのは至難のようです。類人猿になると47才、38才などと30才代を越える個体もでてきています。人間の寿命が30才代であったことも考えますと、まだまだ動物の寿命も延ばせそうです。そこで、13年前に出版された世界中の動物園の長寿動物の資料と平成3年の日本の長寿動物の資料を比較してみました。それによると日本の動物園の動物達も結

構世界の長寿動物に近づいていることが分かります。チンパンジーは13年前の世界記録より10年も長寿になっており、ゴリラも5年ほど伸びています。ラマ、スイギュウ、シロエリオオヅル、オオワシなども世界記録を超えています。また、ヒョウ、グラントシマウマなどはタイ記録になっています。このことは日本の動物園の飼育技術も向上し、また飼育環境が改善されたことによるものと思います。これからも、この記録を更新して、人間が50才代から80才代に伸びたように動物の寿命も伸び、現在の記録を破って新しい可能性への挑戦をしてみたいと思います。しかし、過去の自然の営みを見無視して長寿を追求すべきかどうかは議論の余地があるかも知れません。ただ、動物園としては皆さまがたくさんの動物を一度に見ることによって長寿の法則を推理していただければと思います。

(加納 至)



動物科学資料館の話題

～特別展をふりかえって～

動物科学資料館の展示室は、「常設展示室」と「特別展示室」に別れています。この「特別展示室」では資料館オープン以来、30回の特別展を企画し、開催してきました。今回は、その30回の中から、思い出に残るいくつかをふりかえって、紹介しようと思います。

★1988.7.25～12.13「熱帯雨林の世界」

入口を入るといきなりスコールと雷。やがて雨が上がり、日が差し、鳥が鳴き始めます。この演出を光と音と大きな写真パネルによってみごとに再現！大成功でした。館内はジャングルを思わせるうっそうとした雰囲気、熱帯雨林の動物や植物を剥製、写真パネル、ビデオなどで紹介しました。また、展示の結びは「熱帯雨林を守るのはあなた」というタイトルの下に鏡を置いたのは、なかなかのアイデアでした。

★1988.7.21～8.30「神戸にも象がいた!？」

～アカシ象と日本の象化石展～

1987年、神戸市西区でアカシ象の化石が発掘されました。この発掘されたアカシ象の化石約50点と、これまで見つかった日本の象の臼歯の化石、いずれも非常に貴重なものを神戸市教育委員会、京都大学の協力を得て、展示することができました。また、大昔からの象のたどった進化の様子、現存する象の比較などをわかりやすく紹介しました。



★1988.10.8～1989.3.5「ウォッチング！」 ～こんなにもいた…日本の動物たち～

日本にすむ動物の剥製を鳥類、ほ乳類あわせて180体をずらりと並べ、入館者を魅了しました。また、展示の中心にはイノシシやキジなどの剥製や木、岩、枯れ葉などを使って六甲山系をジオラマで再現しました。また、特別天然記

念物の動物を剥製で紹介するとともに、貴重なニホンカモシカの剥製を直接さわられるコーナーもあり人気上々でした。



★1990.3.21～7.17「動物たちは生きている」 ～けものと魚のいきざま～

須磨海浜水族園と初の同時開催の共同展で、動物園と水族園の資料をお互いに交換し合い、動物の生きざまを陸と海の動物を比較しながら紹介しました。水族園からはハイギョやカワズメを水槽ごとお借りし、なかなかの人気でした。

★1990.7.26～9.4「動物おもしろ細工大集合」 ～動物クラフト展～

木や石、陶器、ガラスなどの素材を利用した手造り細工の動物たちが大集合。展示室中央には乗って遊べる木の動物、資料館入口にある動物世界地図の木のパズルが実際に楽しめるコーナーを設けました。そこでは子供たちと競争で真剣にパズルに取り組むお父さん、お母さんの姿が見受けられました。



この他、まだまだたくさんおもしろい展示がありました。特別展では、その時々話題にあった企画をし、資料館に新しい風を吹き込んできました。これからも動物の生きざまを通して、楽しく学べる企画をと考えていますので、ご期待ください。
(安宅節子)

トピックス

(平成5年3月～6月)

◆春の催し物

- 春休み動物映画大会（3月25日～31日）
動物のアニメや映画を1日6本上映し、7日間で1,666名のお客さんにぎわいました。
- 『旧ハンター住宅』の内部一般公開（4月1日～5月31日）
神戸の異人館の中でも最大級の建物である「旧ハンター住宅」の内部公開を行い、33,627名の入館者がありました。

◆特別展「姉妹都市・動物園展」 ～手をつなごう世界の仲間たち～

神戸市の姉妹都市や友好都市、親善協力都市、姉妹港や友好港の提携をしている都市の動物園を、映像・ポスター・自慢の動物や園内風景の写真・オリジナルグッズなどを用いて紹介しています。また、市街の様子も映像や写真で紹介します。(3月20日～9月30日)



◆中国の珍獣『金絲猴』に待望の赤ちゃんが誕生

昨年5月から、中国天津市・中国野生動物保護協会・神戸市の三者で共同研究を進めていた友好動物の「金絲猴」に4月21日、メスの赤ちゃんが誕生し、かわいい仕草で入園者の人気を集めています。また、6月15日から愛称を募集、8月上旬にはかわいい愛称が決定します。



◆新アシカ池がオープン

昨年8月から、建設を進めていた「新アシカ池」が4月23日にオープンしました。池の中央部には自然石の島を設け、地下の観覧通路からは水中生態が観察できます。

◆「一日動物園長&キャラクターショー」開催

「王子動物園ふれあいフェスティバル」の行事として『一日動物園長&キャラクターショー』を5月30日に開催しました。歌や人気アニメ声優として活躍中の堀江美都子さんを一日動物園長として迎え、職員への訓辞、園内巡視、長寿動物（インドゾウ）への表彰など園長の仕事をさせていただきました。「歌とトークショー」も開催し入園者に大変好評でした。また、人気アニメ「ドラゴンボールZ」のショーを行い、子供たちを中心に大変盛り上がりました。



◆動物を計る会開催（6月6日）

計量記念日にちなんで開催しました。今回の計量動物はサイで、体重を入園者やはがきの応募により当ててもらいました。正解は2,120kgで正解者には記念品を進呈しました。



◆新しい仲間たち……春から夏にかけて新しい仲間が誕生しました

- 3月 パルマワラビー、ミミナガヤギ、エリマキキツネザル、チンパンジー
- 4月 カピバラ、キンシコウ
- 5月 コアラ、カカバ、ヨーロツパフラミンゴ、ベニイロフラミンゴ、タンチョウ、オシドリ、フンボルトペンギン
- 6月 ジマリス、オオハクチョウ、ダチョウ

◆新園長就任

谷岡正之園長が3月31日付をもって退職され、その後任に4月1日付で権藤真禎園長が就任しました。

切手の中の動物たち ⑤ 大型草食獣の仲間



アジアゾウ (インド)



シロサイ (ウガンダ)



フロサイ (中央アフリカ)



カバ (モザンビーク)



アフリカゾウ (ルワンダ)



フタコブラクダ (モンゴル)



シマウマ (ケニア)



ビクーナ (アルゼンチン)



ターキン (中国)



キリン (タンザニア)



アフリカスイギュウ (セネガル)



ロバ (アセンション)



トナカイ (アメリカ)

◆編集後記◆

王子動物園再編整備計画も順調に進み、4月23日に待望の新アシカ池がオープンしました。新しい池は、水中で豪快に泳ぐアシカがアクリルガラス越しに見られるようになっているため、水質管理が重要なポイントになってきます。また、ガラスに藻が付いて見えにくくなるため、飼育担当者はその対策に悩んでいます。現在、試行錯誤を繰り返し、きれいな状態で見ただけのように努めています。かわいいアシカたちをぜひご覧ください。

はばたき 第34号

平成5年7月20日発行

編集：神戸市立王子動物園
TEL. (078)861-5624

発行：(財)神戸王子動物園協会
TEL. (078)801-5711
神戸市灘区王子町3丁目1

印刷：梶原出版印刷合資会社

URBAN RESORT FAIR
KOBE'93
新しき都市の魅力の創造
会期：平成5年4月▶9月

